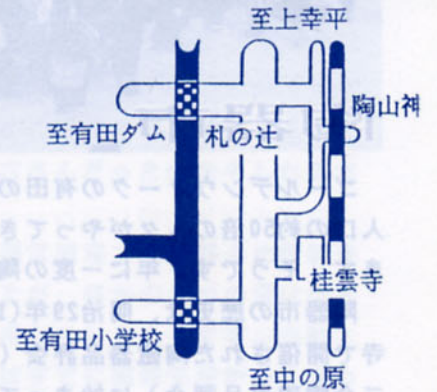




御手の観音

町の中ほど、本幸平地区にある桂雲寺の境内に観音堂があります。ここには「御手の観音」とよばれる手の先だけの観音さまが祀られています。



昭和13年 5月に書かれた『神社寺院祠之調査』には「本尊ハ飛手観音トイッテ手バカリノ尊像デ 藤津郡岩谷観音ノ手飛来ルト伝ヘラレ 毎年十二月三十一日ニハ千余ノ参詣者ガアッテイタ 堂ハ天保年間ニ建立シタノヲ明治四十三年ニ再建シタノガ現在ノモノデアル」とあります。夏秋住職に伺った話によれば、堂の前にある2つの墓に葬られた夫婦によってこの「手」は有田に運ばれたと言い伝えられ、墓碑にはそれぞれ「千観義陳居士」、「圓光妙臺大姉」とあり、それぞれ享保7年、10年に亡くなっています。

鹿島市能古見にある、蓮蔵院の奥の院としてある岩屋観音には秘仏の千手観音が祀られています。このなかの1本が有田の「御手の観音」となったと思われますが、以前は赤絵町の人々によって信仰されていたと伝えられます。おそらく絵筆を持つ職業の人々と密接な関係があったと思われます。

有田町歴史民俗資料館

# 皿山びとの歌 No.6

## 2 \* 皿山びとの歌

### 皿山の風物



#### 陶器市

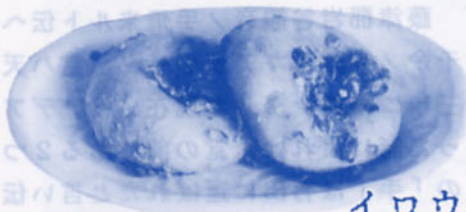
ゴールデンウィークの有田の町には日ごろの人口の約50倍の人々がやってきて町はにぎわいます。そうです。年に一度の陶器市です。

陶器市の歴史は、明治29年(1896)3月に桂雲寺で開催された陶磁器品評会(正式には有田五二会陶磁器品評会)に始まっています。明治44年の第15回品評会からは、新築された有田物産陳列館(現在の有田商工会議所)で開催されました。これは当時の深川栄左衛門、田代呈一の両氏を発起人として「陶磁器は県下特殊の産物にて……この好機運に際し、全国に率先して管内陶磁器標本を陳列し、各自の技術の競争もし

くは知識を増進し、もって時勢の必要に応ぜんとす」という趣旨のもとで開催されました。この時の出品者は141名、出品数は784点で希望者には即売も行なわれました。

その後、大正4年の第19回陶磁器品評会の開催中、陶祖祭とともに職工学生の陶磁器作品の競技会や、格安陶磁器売店、いわゆる窯元や商店の蔵ざらえが行なわれました。これが現在の有田陶器市の原形といえます。この蔵ざらえを考え出したのが深川六助、中島浩気、徳見知敬の人たちで、その後有田青年会員が協賛会を組織して盛り上げていきました。

このように長い歴史を持つ陶器市で、現在では遠く関東、関西からも掘り出し物目当てに大勢やってきます。近隣の町からも、ソーケ1杯に家族の1年分の食器を買い出しに行っていた母の姿を見て育った人が、また一家の主婦となり、やはりこの季節になると両手に重い荷物をかかえての陶器市通いをするという話を聞きます。女性には心ときめく季節の風物詩となっているようです。(写真は昭和28年の陶器市)



#### イロウサン餅

この季節になると、町内のあちこちの家でうす緑の上に小豆をのせた草餅が出されます。中のあんの甘さと外の小豆の塩味が口の中で一緒に何ともいえない微妙な味わいです。この餅の名前は「イロウサンモチ」といいます。町内の稗古場にお住まいの金ヶ江 満さん(74才)、シゲヨさん(70才)夫婦の手によって作られているもので、金ヶ江さんは「アレツケモチ」と呼んでいますが、町人は「イロウサンモチ」といって買いにみえるそうです。この餅は満さんの父の金ヶ江猪郎さんが、今から約55年前から作り始めたもので、その名前に由来していると

いいます。

作り方は一般のフツモチとほぼ同じですが、毎朝午前3時半ごろに起き出し餅を作り始めます。小豆の煮方は水を少しずつ入れて炊きますが、煮あがってからザルに移し、水を切って塩味をつけます。この塩加減はシゲヨさんの手加減にかかっています。餅がつきあがると粉は使わずに水ちぎりをします。このため若葉色の美しさが残ります。次にモロフタにゆでた小豆を敷き詰め、その上に餅を置き、餅の上の方は少しへこませてから小豆をつけます。

フツ(よもぎ)は西海橋近くから採ってきて1つ1つ丁寧に葉をちぎり、毎日150~200個の餅を作る作業はとても大変な仕事です。金ヶ江さんは「もう止めようか」と思う時もあるといわれますが、有田の味の1つである「イロウサンモチ」です。どうか、お元気な間はぜひ続けてほしいと願っています。

発掘レポート



清六の辻  
窯跡群



有田町教育委員会では毎年4カ所の登窯の調査を行なっています。昨年はそのほかに赤絵町遺跡の調査が加わり、野外での調査に追われた日々でした。前回までで一応赤絵町遺跡の報告を終わり、今回は有田地区消防署付近にある清六ノ辻窯跡群を紹介しましょう。

この窯跡群は1号、2号、大師堂横の3つの登窯から構成されています。1号や大師堂横窯は畑や工場の下になって、ほとんど原形をとどめませんが、2号窯は登りの段々を残した状態で埋め戻されています。場所も「あー！あそこ」というくらい極めて簡単、消防署の真裏にある竹林の所です。ちゃんと窯跡の部分だけは草刈りをしていますので、一目で窯跡だということが分かります。

この窯跡群のうち、大師堂横窯は窯本体の確認はできませんでしたが、1号は3室が確認されました。1部屋の大きさは幅約3m、奥行き2mで、有田の窯では小さい方です。2号は胴木間と18室が確認され、1部屋の大きさは幅が平均2.7m、奥行き2.1mで、1号とほぼ同じです。

鉄釉と灰釉をかけ分けた皿も

本窯跡群は江戸時代の初期、1610年～1630年ごろの窯場ですから、今から約360～380年ほどたっていることとなります。一説によると泉山

で陶石を発見し、上白川の天狗谷窯で日本初の磁器生産に成功した李参平が、その前に焼き物を焼いていた所ともいわれます。“清六”の名称は李参平が去ったあと、ここで焼き物を作った人の名前に由来していると伝えられています。まさか、清六さんが3基とも1人で使ったとは思えませんし、当時の窯はすべて共同窯ですから、もしかしたらここで焼き物を焼いた工人たちのリーダーが清六さんだったのかもしれない。

3基のうち、大師堂横窯では磁器も比較的多く焼かれていましたが、ほかの2つの窯はほとんど陶器ばかり生産していたようです。当時、有田のほかの窯ではすでに磁器生産が多くなっていますから、むしろ珍しい窯といえるかもしれません。そのかわり陶器では独特な製品も見受けられます。特に左右に鉄釉と灰釉を掛け分けた皿などは、この3つの窯以外では見ることができません。

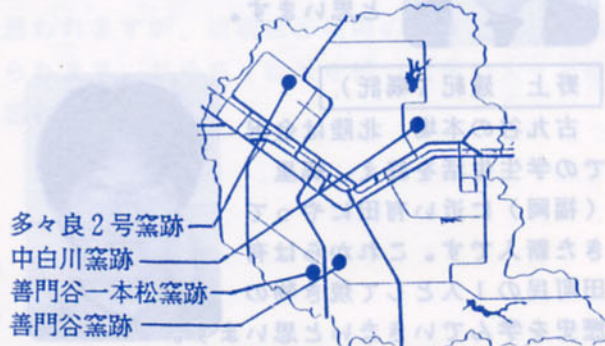


▲鉄釉と灰釉をかけ分けた皿 (清六の辻1号窯)

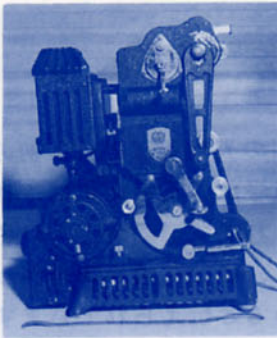


▲絵唐津の皿の陶片 (清六の辻2号窯)

本年度の発掘調査は、黒牟田、戸杓、白川を予定しています。目の当たりにする登窯の姿も、なかなか伝統の力を感じさせます。有田の歴史探訪に、ちょっと立ち寄ってみませんか。



## 4 \* 皿山びとの歌



### 展示・収蔵資料 のご紹介

〔9.5 mm 映写機〕

パティ・ベビィというフランス製の映写機で現在と違ってフィルムの真中にコマ送りの穴があります。電動ですので作動させると、昭和の初めごろの国道改修や、蔵春橋（中ノ原）の竣工などの祝賀の時に行なわれた道踊りの風景が映し出されます。

何事にも進取の気性に富んだ先人の生活が、当事の最新式であったこれらの資料からも伺えます。（久富 桃太郎氏寄贈）

### ちよっと い・い・話

先日のこと。木のお医者様として世界的に有名な山野忠彦先生が来有されました。その折り泉山の弁財社境内にある大イチョウを見て、「この木は赤ちゃんを持ったお母さんが折ると母乳を出す力を秘めていますよ。大事にしてください。」とひとこと。

### 人事



井手 誠二郎 館長

4月1日付けで館長就任。これまでは若い人材を育ててきましたが、これからは焼き物の歴史を見つめていきたいと思っています。

### 野上 建紀（嘱託）

古九谷の本場、北陸は金沢での学生生活を終え、郷里（福岡）に近い有田にやってきた新人です。これからは有田町民の1人として焼き物の歴史を学んでいきたいと思っています。



### お知らせ

〔古文書教室〕

昨年好評をいただきました古文書教室を今年も開催いたします。ご希望の方は資料館まで電話にてお申し込みください。☎43-2678

- ・日 程 7月～9月の第2、第4水曜日  
午後2時～4時
- ・講 師 細川 章先生（佐賀女子短大講師）
- ・場 所 有田町公民館

〔拓本・裏打ち教室〕

文学碑や石碑などを墨で和紙に写しとる作業を拓本といい、拓本の和紙や古い書き付けを補修する作業を裏打ちといいます。今年度は新しくこの教室を予定しています。開催は8月ごろ2回に分けて実施予定ですが、詳細は後日、回覧板にてお知らせいたします。ご参加をお待ちしております。

### 濃み筆のつぶやき

御手の観音様のルーツを求めて、休日の午後子供たちと鹿島を訪ねてみました。蓮蔵院というお寺で遠くに見える岩屋観音のある山の話を知り、車では行けないという修験の地をあきらめ国宝の仏像を見せていただきました。幾多の戦乱を生き抜いてきた仏像のおだやかなお顔に、しばし心休まるひとときをすごしました。

さて、町は陶器市一色となります。今年はどんな焼き物が店先を彩り、どんな出会いが待っているのでしょうか。（葉）

### 有田町歴史民俗資料館報 皿山びとの歌 No.6

発行年月日 \* 平成元年5月1日

編集・発行 \* 有田町歴史民俗資料館

〒844 佐賀県西松浦郡有田町391番地

☎0955-43-2678